
死にたがりのソングライター

藤森優斗

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

死にたがりのソングライター

【Nコード】

N6826J

【作者名】

藤森優斗

【あらすじ】

死ぬ事とは絶望に近いものなのか。それとも絶望そのものなのか。この世界が嫌になったら、もう死ぬしか行き場所はなくなってしまうのか。そんな僕等は何を光にして闇と交わればいいのだろうか。僕等は皆死にたがりで、それでも死なずに死のうとしている。世界の終わりは静かに待っているんだ。

花は生きて、人は死ぬ

腐りたいだけの自殺症です
あれこれ繰り返す事、それに回され酔う
何気ない、人の優しさです
彼さえ救えない彼女、そこで息絶えそう

花はいつまでも綺麗に見える
枯れた姿、廃墟的、停滞期

狂いたいだけの末期症状
無理して生きれる程、人類は楽園にいない

花はいつまでも綺麗に見える
枯れる事を知った者に捧げるレクイエム

眠気覚ましの催眠術
夜と朝をなぞる事、いつも直線じゃない
腐りたいだけの者です 狂いたいだけの者です
くだらない程、暇です 逃げ場の無い世界です

だから綺麗な花びらが散っていく様に
枯れてもまた咲き誇る様に
人も綺麗で素晴らしい者だと
信じる事を信じていたのです

枯れる事は知ってて 足元には水溜まり作った
息絶える事を知っても、塩水を流す。生命の水をくれ

奇跡の終わり

汚い手を使って生きてこれた事 その皮肉さに頼って暮らしてる事
僕はただの落ちこぼれです 救い用がないので 残念な目で見ないで

此処にいる事 それは奇跡に近いはず
生きてるはず 今も息してるはず

構うな 構うな 構うな 構うな
そこで愚かだと思えよ

構うな 構うな 構うな 構うな
愚昧なる我を讃えよ

友達なんて、あいつの思い違い 僕から見れば、赤の他人に違いない
世界は今日も無視をする 使う薬も効かないし、狂うほどの愛が欲しい

君が全てを歌うよ そこに奇跡を携えて
命を燃やして 生きてる振りで

腐るな 腐るな 腐るな 腐るな
生命の水を掬え

狂うな 狂うな 狂うな 狂うな
奇跡的な世界の終わりだ

彼女は何万回も「死にたい」と呟いた
その魔法の言葉をたまに試して使ってる
素敵な言葉だ、なんて思える事
その瞬間だ 奇跡が終わりを見る

構うな 構うな 構うな 構うな
底で命の水を掬え
構うな 構うな 構うな 構うな
愚昧なる世界を讃えよ
奇跡的な銀河を讃えよ

奇跡の命を その奇跡の水をくれ

死に際のシナリオライター

巡る思想、その先に産まれるモノを欲しがって
走るペン、思考を搾る様に

廻る世界、矛先紛い、感動のストーリーを
走るペン、愛を描く様に

「私は招待状を受け取った。
差出人の名前は神だった」

この狂わしくも素晴らしい人生に
最高のハッピーエンドを捧げよう
綺麗な花束を飾り付け
僕の想いは灯る火に授けて

腐る機能、醜いモノを綺麗に量産する
名作へ、愛を込めた詩を

「天国は人手不足なのです。
特に才能ある者が必要だ」

「死」誰も知りえない本当の意味を
最低のジ・エンドは永遠の生命
始まりの音から通過点を抜け
終わりが無いのなら光は皆無

天国へ向けたメッセージ
誰もが死に際のシナリオライター

天国へ向けたメッセーヂ

ダレないで、諦めないで、そのシナリオ、人生。

この愛おしくも不甲斐無い世界に
最高のハッピーエンドを捧げて

ラストシーンは決まって一つだ
ラストスパートだ、ライターは君自身だ

この狂わしくも素晴らしい人生に
最高のハッピーエンドを捧げよう
綺麗な花束を飾り付け
僕の想いは灯る火に授けて

天国へ向けたメッセーヂ
誰もが死に際のシナリオライター

世界のブルース

黙れよ 他人の愚痴言いたいだけだろ？
別にいいよ 当たり前的事だから
別にいいよ 仕方のない事だから
ただ、それは世界のブルース聴いた後だ

お前の世界は狭すぎる

お前の世界はカビ臭い

刺激ないだろ？ イヤホン入れろ
死とか無だろ？ イヤホン入れろ

お前の世界を切り裂く

そこに光を射してやろう

臭え、格別ごときで街を埋めるポップス
街は冷める 媚びれた奴が這うだけ
街は冷める 歪んだ言葉が散るだけ
なあ、此处にあのブルース流してやれ

お前の世界は狭すぎる

お前の世界はゲロ臭い

生まれ変われ イヤホン入れろ
覚醒の時だ イヤホン入れろ

お前の世界を塗り替える

世界は無限に広がるだろ

70年代、80年代、90年代

どの時代にだって光は存在する
70年代、80年代、90年代
2000年代にだって光は射すぜ

掻き鳴らすコードを感じ取れ

図太いベース音を心臓に刻め

リズムカルなスネアを打ち付けろ

お前の世界はブルースが足りない
お前の世界はブルースが足りない

地下室の空

繰り返す 繰り返す 意味の無い残酷な部屋
繰り返す 繰り返す 価値の無い沈黙の部屋

生きる事に些か疲れて
溺れる水に命の光を

だから孤独を貰うと地下室に逃げ込んだ
痛みも幸福も味わえない様に
だけど自然と生きている自分がいた
密室の中 綺麗な空を探しながら

繰り返す 間違い探し 答え合わせの時間は過ぎたよ

駆け上がる階段は終わりを迎えた
何を指すか 解答は此処だ

フランケンシュタイン 腐乱系死体
謎の実験室 人体模型の旅の夢
ドーピング検査 麻薬取締班
欲求の海の底 天国の求人情報

生きる事に些か疲れて
生まれた事実を受け止めきれずに
雨水の水溜まり 泥水の行き止まり
汚れた水に命の光を

彼女に抱きしめられて迎える窒息死

彼女を犯して手に入れた汚れを

また、この手に
心に刻みたい

だから孤独を貰うと地下室に逃げ込んだ
痛みも幸福も味わえない様に
だけど不思議と生きてる自分の姿を
憎む眼光で睨みつけている

地下室の中 綺麗な空を夢見ていた
地下室の中 綺麗な空を探していた
地下室の中 綺麗な空を見た気がした

それが嘘でも……。
それが夢でも……。

BLACK or WHITE

君がいた街 夜の商店街

縫うように走り抜けた日の僕に問う

「あの幸せは白かっただろ？」

照らし続ける光が見えたのだろ」

恋の予防策 命拾う水

可愛い少女の笑顔を見つめた僕に問う

「あれを見た感情は黒かったろ？」

少女の笑顔を憎んだのだろ？」

この世界に飽きてたのに

あの笑顔を嫌ってたのに

どこまでも黒い気持ちで白い世界に包まれていた

少女の手首の傷を見て あん笑顔に救われた

時は遡り 幼少時代

何もかも不思議だ、と子供ながら言う

どうして空に手が届かないのか

あの子を見て想うものは何か

その魔法は解けたから

この世界に飽きたのだ

誰にでも黒い部分がある事を知らないでいた
少女の姿を知った時 黒くて白い笑顔を知った

皆、なんか狂っちゃってさ

死んだ目をしてても生きる精神が痛い

皆、なんか狂っちゃってさ

病んだ気持ちで息をする事が怖い

この魔法は解けたから

あの笑顔を嫌えないんだ

どこまでも黒い世界なのに、白い光はどうして射すの？

くだらない事ばかりだから　ねえ、君との口付けで逝こう

どこまでも黒い気持ちで白い世界に包まれていく

あの笑顔を愛していた事　あの笑顔を憎んでいた事

あの笑顔に出会えた事　あの笑顔に救われていたんだ

Generation Drug

真夜中 公園のブランコで走馬灯 あの日が僕が
夢の中 光年をスライドで不眠症 あの日と君と

変わっていく世の中

代わりがない責任の上

夜の商店街 飾らないネオンに

光った 流れ星 きつと……。

「さあ、新時代の幕開け」とか言って
貴方は何も変わってなんかいないでしょ？

明日こそが新世紀 昨日までは旧世紀
変わらない私達で 新しい時代へと

闇の中 絶望と希望の境界線 命の水を

違っていく共有感と

当てはまる気持ちもあつて

心の距離感 また出会える日まで
どの速度で生きればいい？

時代の流れは僕等を巻き込む 置いてきぼりは本当に怖いね
世代交代の時は今こそか 時代を築く 僕等のブルース

変わらない感動と

代わりがない貴方の存在

夜の商店街 飾らないネオンに

光ったモノ 流れていくモノ

それ愛　その光　人生と愛

「さあ、新時代の幕開け」とか言って
貴方は何も変わってなんかいないでしょ？
明日こそが新世紀　昨日までは旧世紀
変わらない私達で　新しい時代へと

さあ、私達が変わえていこう　今更
さあ、時代を塗り替えよう　今更
さあ、世代交代の時間だよ　今更
さあ、世界が変わる新世紀　今更

存在とは

変わる事のない終わりを知っていても
人類は豊かで明るい夢を見る者です
それだって、仕方ない事じゃないか
幸福なんて、そこにしか見出だせない

死にたい時だって度々ある
狂った精神だって治らずある
救いの手なんて切り落としたんだ

此処に存在するとは……。
世界に存在するとは……。

濡れるほどの愛を交わしあっても
永遠なるものとは何を指すのでしょうか
夢知って、叶う気はしないじゃないか
絶望だって、いつも隣を歩いてるのだから

手首が痛む夜だってある
腐った信念だって絶やさずある
命綱なんて初めから切れてたんだ

此処に存在するとは……。
世界に存在するとは……。

選ばれし者達よ、諦めず生きる事
その意味も価値も証明なんて出来ないが
選ばれし者達よ、諦めず生きる事

その意味も価値も気にせずになさいよ

此処に存在するとは……。

世界に存在するとは……。

素晴らしき生命の勝利だ。

あなたが必要だから、一人分の敷地があるのだ

そこに存在するのだから

世界に存在するのだから

瀬戸際のイラストレーター

悲しみの捨て場や幸福の基地を頼りない思想で思い描く
憎しみの墓場と現実のカビを擦りつけて見本を未来に発信

ギリギリの繰り返し

苦しい事には些か慣れてはきている

難しい年頃だ、なんて

安定期を見た事は一度もないが……。

絵に描いた様な絵空事の人生

「絶望とは……」か？ その歳で

足場は安定しない 誰もが綱渡りの人生

瀬戸際のイラストレーター

厳しい世間体と生温いミュージック

二つがマッチする意味を問う

上辺だけの関係者

真実のロックンロール、愛のパンク

聴きにくい、とは言わせない

愛してんだ。素晴らしいブルースを……。

絵に描いた様な絵空事の人生

「希望の日々？」何処の塾で習った？

頭はスッキリしない 誰もが綱渡りの人生

意図した事、意味も無くしそう

追い込まれた、路地裏のゴミ捨て場

名も無き猫の住家だ

差し込まれた、人生論のレポート紙
裏面にして絵空事描け

絵に描いた様な絵空事の人生

「絶望とは……」か？ その歳で

足場は安定しない 誰もが綱渡りの人生

瀬戸際のイラストレーター

上手くいかない、それが当然の人生

瀬戸際のイラストレーター

なんとかなった、それも偶然の人生

瀬戸際のイラストレーター

愛の鎮魂曲

戦争で亡くなった小説家が残した一冊
そこに愛、確かな愛を記した物語
喧騒に包まれた東京の狭い灰色空
都会の罨、自殺を誘うネオンの流れ星

噂に聞くほど平和じゃない
スクランブル交差点 交わされる誓い
救急車のサイレンが、信号の音楽が
脳を蝕む、全ての生命を裏切る世界に飽きたんだ

何もねえ、くだらない世界だ
生まれた事と生きてる事
そんな事に興味、関心は無いのさ
誰もが死ぬ事に精一杯だ

両足が役目を失った朝に食べたベーコンエッグ
世界の罪、名前を記した死刑囚の唄

見間違えるほどの絶望じゃない
マスメディア 情報化社会の伏線
テレビのアイドルが、同級生の女の子が
脈を失う、駅のホームで、学校の屋上で、永遠となる

その愛は永遠なるものとなる

呼吸を繰り返す事が本当は凄く怖いのだ
完成なんてしない、未完成を好む

心臓のリズムが狂わない事が不思議なのだ
人間承認証は無い、証明は出来ない

戦争で亡くなった小説家も

喧騒に包まれた日々も

名前を記した死刑囚も

この世界に飽きた人々も

全ての想いを亡くした 愛の鎮魂曲

何もねえ、生きてる気もしねえ

それでも生命の水を掬え

それはまだ飽きてないじゃん

何もねえ、くだらない世界だ

生まれた事、生きてる事

そんな事を諦めず続ければ

世界中に流れ続ける愛の鎮魂曲で

この世界を救う為の鎮魂曲で

この世界を壊す為の鎮魂曲で

ナイトメアシンドローム

綺麗な満天の空 温かいベッドの中
安らかな寝顔で決まって見る悪夢

この世界は今日も問題なく回る

僕と君がいなくても、彼や彼女がいなくても

病んじやった時代に紛れて

不貞腐れて狂った振りして

嫌気が転がる世界に歩を進める

ナイトメアシンドローム 現実と幻想の狭間

命一つ 救う為の絶望で

ナイトメアシンドローム 狂わされた世界を壊せ

命一つ 救う為の聖水を

俺にくれ

未来の人類へ、この部屋からのメッセージ

「世界を助ける事は出来ないらしいよ……」

神に対する尊敬の念で、流れ作業に身を委ねる

神に対する尊敬の念で、時に任せてその身を投げる

腐ったこの世界を 狂ったこの世界を

救いようの無い人の手で

ぶっ壊してくれ

ナイトメアシンドローム 感動的なラストを切る

在り来りな生命の終わり

ナイトメアシンドーム 存在とは偶然の奇跡

命一つ 救う為の聖水を

俺にくれ

未来の世界へ、この部屋からのメッセージ

「素晴らしき姿でいろ。汚れた世界で」

死にたがりのソングライター

ああ、狂った世界なのに美しく見える今日

ああ、腐った世界なのに素晴らしき生命の美

いつまでも可愛い彼女は、体売って生きていて
いつまでも汚いアイツは、仮面を被って生きていて

朝方のニュース、中学生の飛び降り自殺

翌日には消えてったね

夕方のニュース、女子大生のバラバラ死体

右手は無くしたままだね

素晴らしき、この世界に愛が溢れてる夢を見よう
光り輝く星空の様に見えるネオン
ビルの屋上で眺めて歌うよ

ああ、明日を待つ少女が温かいベッドで眠るよ

ああ、死を待つ死刑囚が薄っぺらい布団で眠るよ

朝方のニュース、芸能人の結婚報道

テレビに映る素敵な笑顔

夕方のニュース、レイプ犯の指名手配

テレビに映る素敵な素顔

素晴らしき、この世界は皆が平等に生きれる日々
戦場で散った戦士は学校のテスト
たった三点の為に捧げるよ

痩せ細った少女達の頭上で星は綺麗に光るよ

ライフフル持った少年を横目に人は贅沢を求めるよ

ああ、狂った世界なのに美しく響く愛の鎮魂曲

ああ、腐った世界なのに裸足の少女は可愛く笑う

素晴らしき、この世界に平和が似合う日々を待とう

不格好な姿は承知 叶わない夢でも

見るだけなら別にいいでしょ？

素晴らしき、この世界に愛が溢れてる夢を見よう

光り輝く星空の様に見えるネオン

ビルの屋上から眺めて歌うよ

素晴らしき世界の讃歌

素晴らしき世界の讃歌

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6826j/>

死にたがりのソングライター

2010年10月9日22時01分発行